第１章
豊中市の特性と課題

第1節 豊中市の概況 …… P. 8
第2節 市民･事業者の意識 …… P.16
第3節 都市づくりの課題 …… P.20

序章
第1章
第2章
第3章
第4章
参考資料

第１章　豊中市の特性と課題

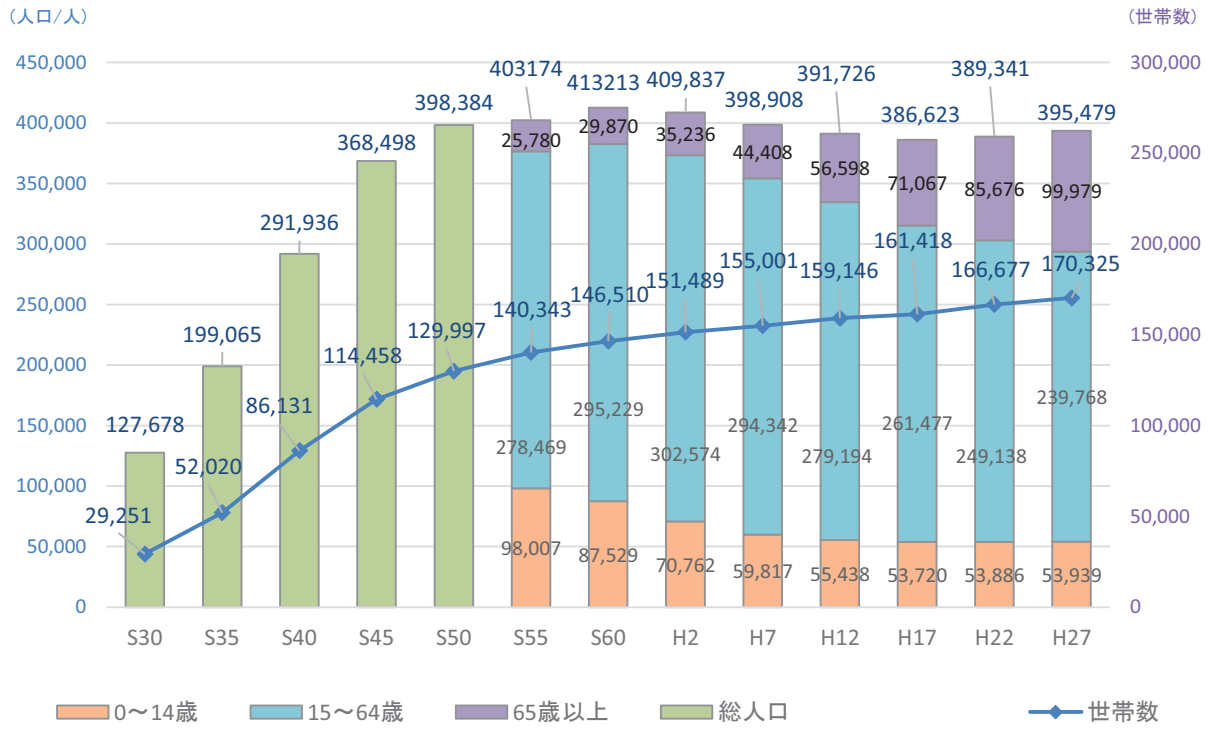
第１節　豊中市の概況

（１）人口

①人口および世帯の推移

- 人口は昭和 60 年（1985 年）以降、平成 17 年（2005 年）まで減少が続きましたが、その後増加に転じ、平成 27 年には 395,479 人となっています。
- 年齢別では、年少人口（14 歳以下の人口）は平成 17 年（2005 年）まで減少が続きましたが、その後増加に転じています。高齢人口（65 歳以上の人口）は増加傾向が続き、その割合は平成 27 年（2015 年）には約 25.3%となり、この 20 年間で 2 倍以上増加しています。
- 世帯数は増加傾向が続き、平成 27 年（2015 年）には 170,325 世帯となっています。

●人口・世帯の推移



※総人口には年齢不詳人口を含みます。

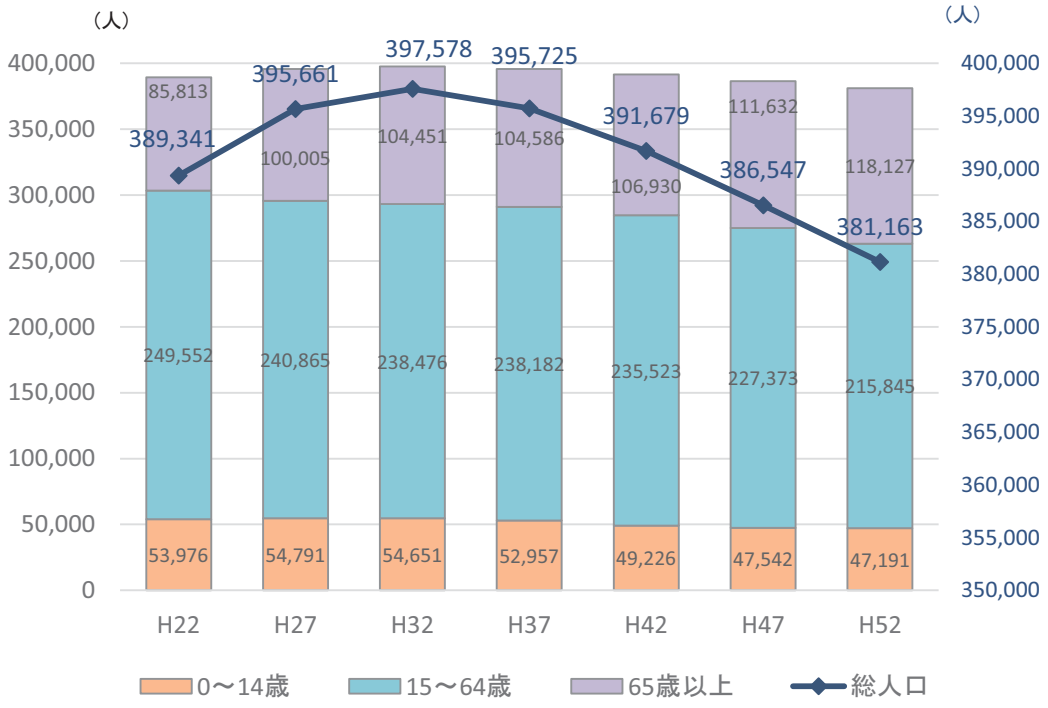
出典：国勢調査

②将来人口推計

・「豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によると、人口は平成 32 年（2020 年）の約 39 万８千人をピークに減少を続け、平成 52 年（2040 年）には約 38 万 1 千人となり、平成 27 年（2015 年）に比べて約 1 万 4 千人減少する推計となっています。

・年齢別の将来人口推計では、年少人口、生産年齢人口（15 歳～64 歳の人口）が減少するのに対して、高齢人口は増加し続け、平成 52 年（2040 年）には総人口に占める割合は 30%を超え、今後は一層、少子高齢化の進行が想定されます。

●将来人口推計



出典：豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

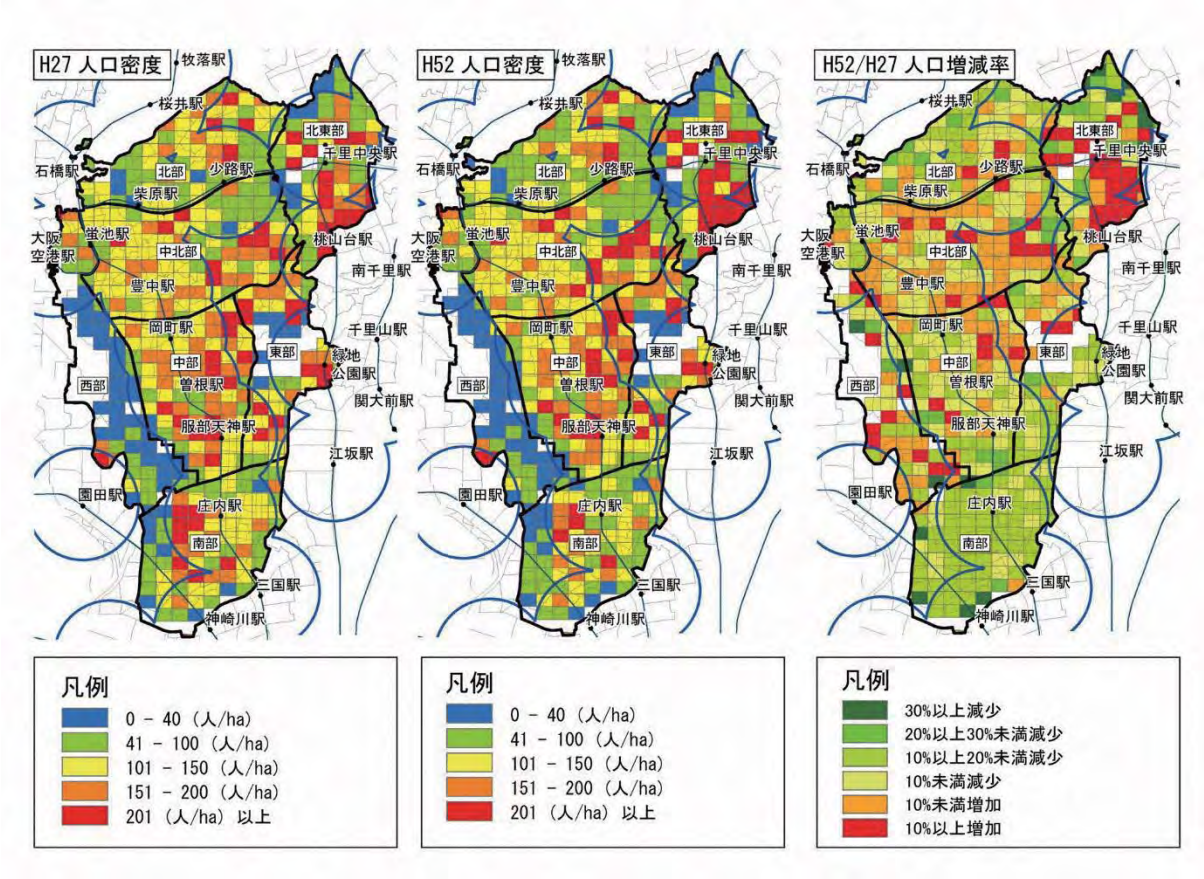
③メッシュ別将来推計

メッシュ別将来推計は、平成 27 年（2015 年）の豊中市の人口をメッシュ状（250m メッシュ）にプロットし、各メッシュごとに人口ビジョンに則して平成 52 年（2040 年）の人口を推計したものです。

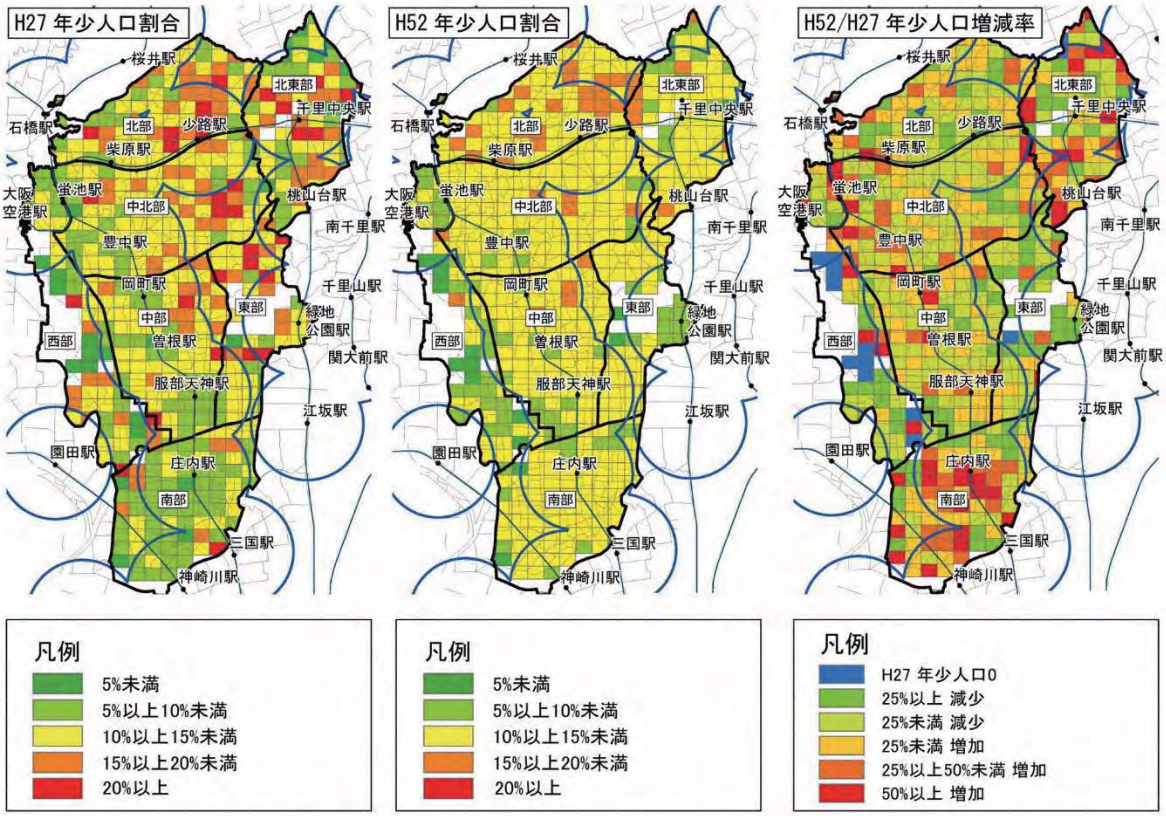
≪平成 52 年（2040 年）の人口動向≫

- 人口は、北東部地域、中北部地域で増加する地区が多く、南部地域で全体的に減少しています。
- 年少人口は、全市的に減少していますが、平成 27 年（2015 年）時点で年少人口割合が低い南部地域では増加がみられます。
- 高齢人口は、全市的に増加していますが、平成 27 年（2015 年）時点で高齢人口割合が高い南部地域、北東部地域では減少がみられます。

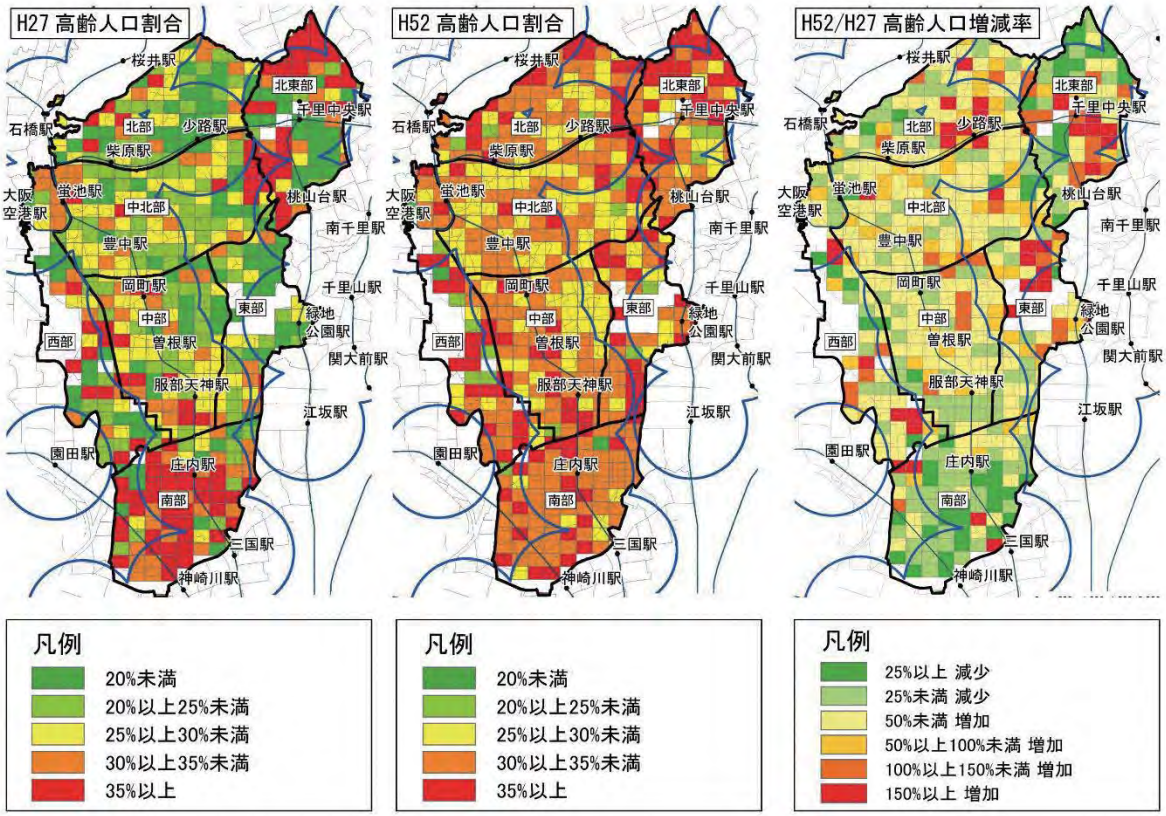
●メッシュ別将来推計【人口密度・人口増減率】



●メッシュ別将来推計【年少人口割合・年少人口増減率】



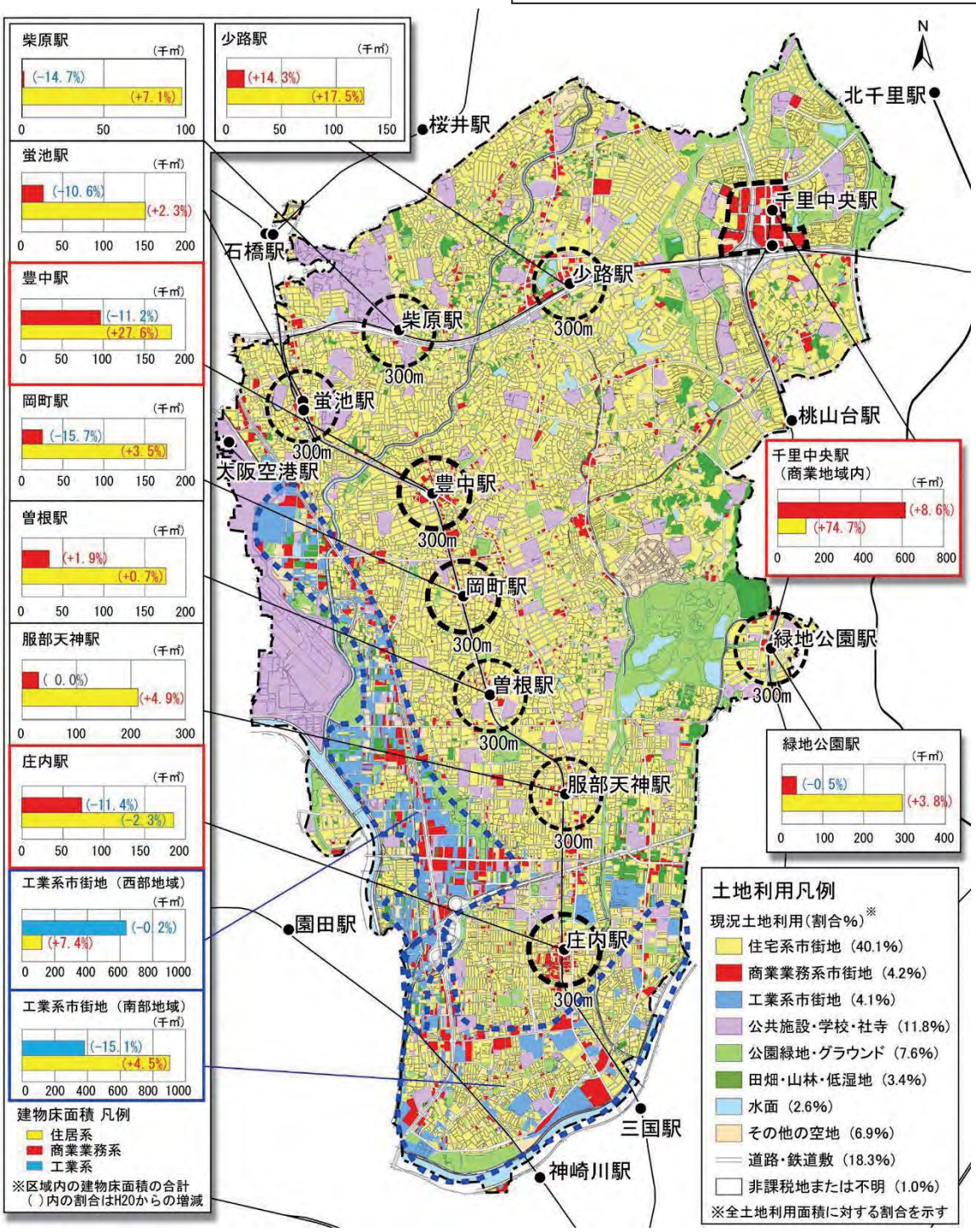
●メッシュ別将来推計【高齢人口割合・高齢人口増減率】



（２）土地利用

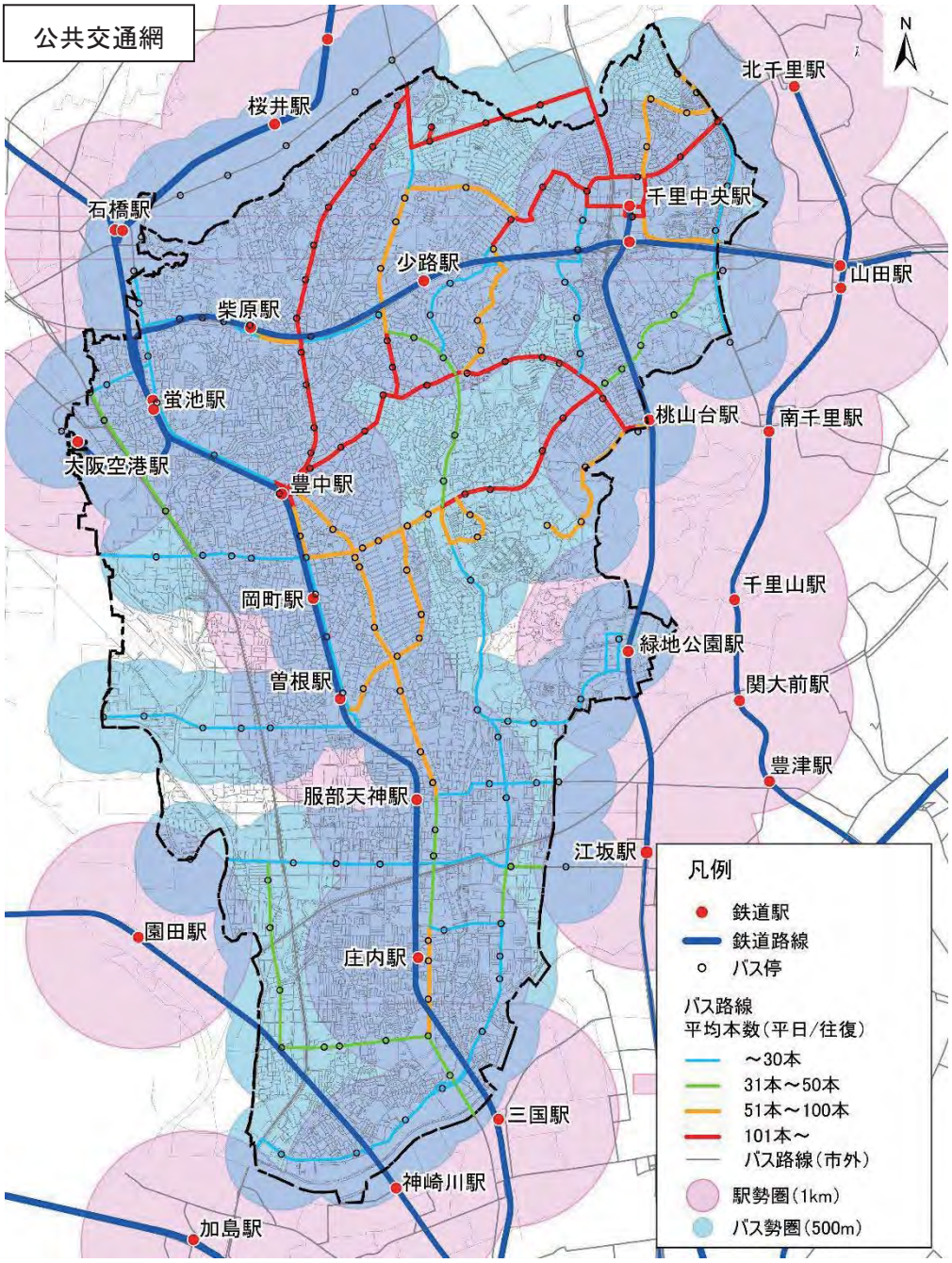
- 住居系市街地は、市域の広い範囲に及んでおり、主に公共交通の利便性の高い地域にみられます。
- 商業業務系市街地は、千里中央駅・豊中駅・庄内駅をはじめとする鉄道駅周辺などに集積しています。千里中央駅周辺では複合的な都市機能が立地し、北部大阪の広域拠点として機能充実がみられ、豊中駅・庄内駅周辺では商業・業務施設の減少がみられます。
- 工業系市街地は、西部地域や南部地域に分布しており、西部地域では工業集積地において住宅の増加がみられ、南部地域では住宅と事業所の混在が進んでいます。

土地利用現況図　平成 28 年（2016 年）



（３）交通

- 南北に阪急宝塚線（6 駅）と北大阪急行（2 駅）、東西に大阪モノレール（5 駅）が運行し、これらの駅と接続する形で市内に網目状にバス路線網が形成されており、市域の大部分が鉄道駅 1km、バス停 500m の圏内として、人口の約 99%が居住する公共交通を中心としたコンパクトな都市構造が形成されています。
- 市域を南北方向に概ね２分すると、市域南側は北側に比べてバス路線の運行本数が少なく、市内東西連携や東西隣接市との連携が弱くなっています。
- バス路線では、平成 25 年（2013 年）３月末に曽根駅と猪名川公園前を結ぶコミュニティバスが、利用者が少なかったために廃止され、平成 26 年（2014 年）12 月末には府道大阪池田線を走行していた岡町加島線も同様の理由により廃止されました。そのほか、北大阪急行の千里中央駅から箕面市への延伸に伴い、バス路線の再編が見込まれます。

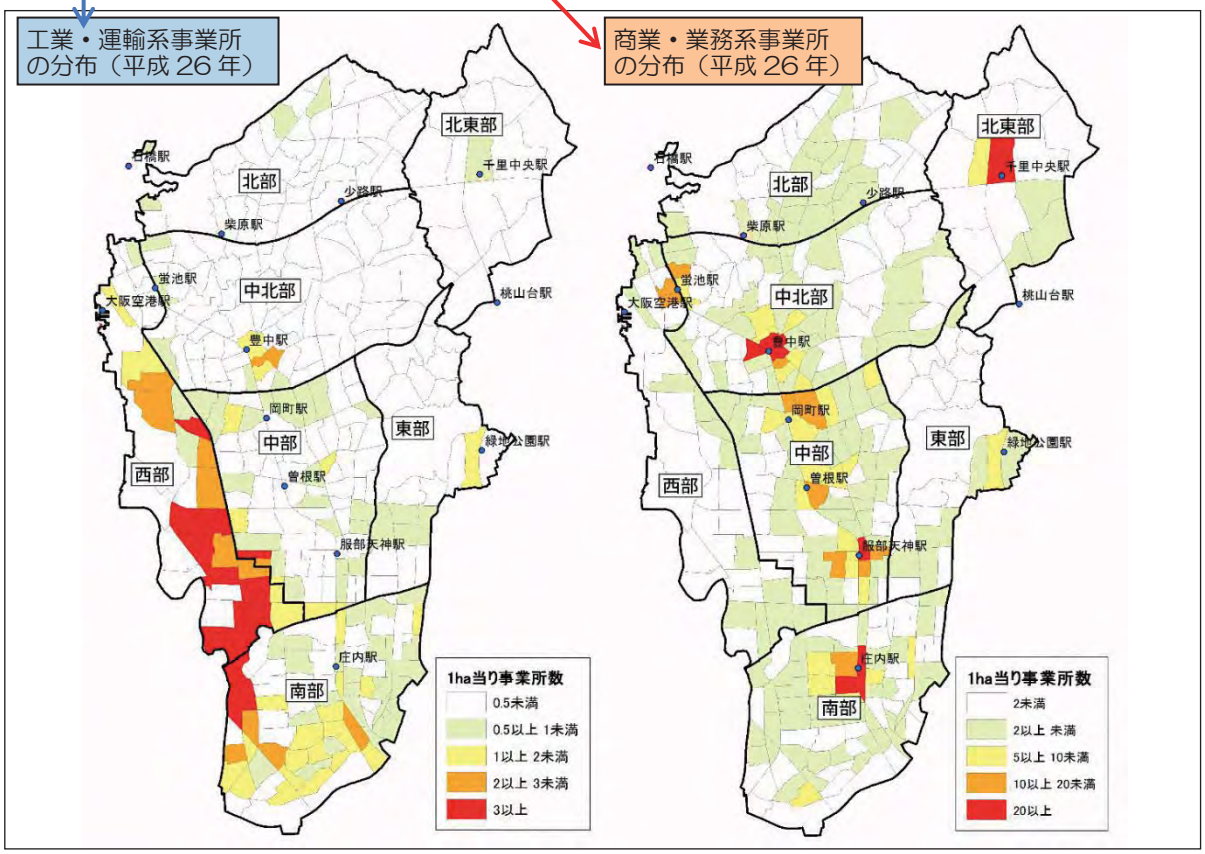


（４）産業

- 平成 21 年（2009 年）から平成 26 年（2014 年）にかけて事業所総数では 6.5%減少していますが、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」の業種では増加しています。
- 平成 26 年（2014 年）における業種別分布をみると、工業・運輸系事業所は西部・南部に、商業・業務系事業所は千里中央駅、豊中駅、庄内駅、服部天神駅の近傍に集中して立地しています。

	事業所数			従業員数（人）		
	H21	H26	H21-H26増減率	H21	H26	H21-H26増減率
総数(A～R 全産業(S公務を除く))	14,576	13,632	-6.5%	129,028	130,814	1.4%
A～B 農林漁業	8	9	12.5%	72	57	-20.8%
C 鉱業，採石業，砂利採取業	0	0	0.0%	0	0	0.0%
D 建設業	967	829	-14.3%	7,699	6,701	-13.0%
E 製造業	1,480	1,294	-12.6%	16,548	14,935	-9.7%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	9	8	-11.1%	169	513	203.6%
G 情報通信業	153	110	-28.1%	2,995	2,176	-27.3%
H 運輸業，郵便業	308	306	-0.6%	8,388	7,946	-5.3%
I 卸売業，小売業	3,280	2932	-10.6%	26,707	26,464	-0.9%
J 金融業，保険業	214	184	-14.0%	4,212	3,719	-11.7%
K 不動産業，物品賃貸業	1,723	1631	-5.3%	5,997	5,551	-7.4%
L 学術研究，専門・技術サービス業	471	410	-13.0%	3,209	3,082	-4.0%
M 宿泊業，飲食サービス業	1,998	1748	-12.5%	14,393	12,854	-10.7%
N 生活関連サービス業，娯楽業	1,333	1240	-7.0%	6,223	5,769	-7.3%
O 教育，学習支援業	546	596	9.2%	6,271	9,168	46.2%
P 医療，福祉	1,268	1561	23.1%	17,792	22,213	24.8%
Q 複合サービス事業	58	53	-8.6%	484	663	37.0%
R サービス業(他に分類されないもの)	760	721	-5.1%	7,869	9,003	14.4%

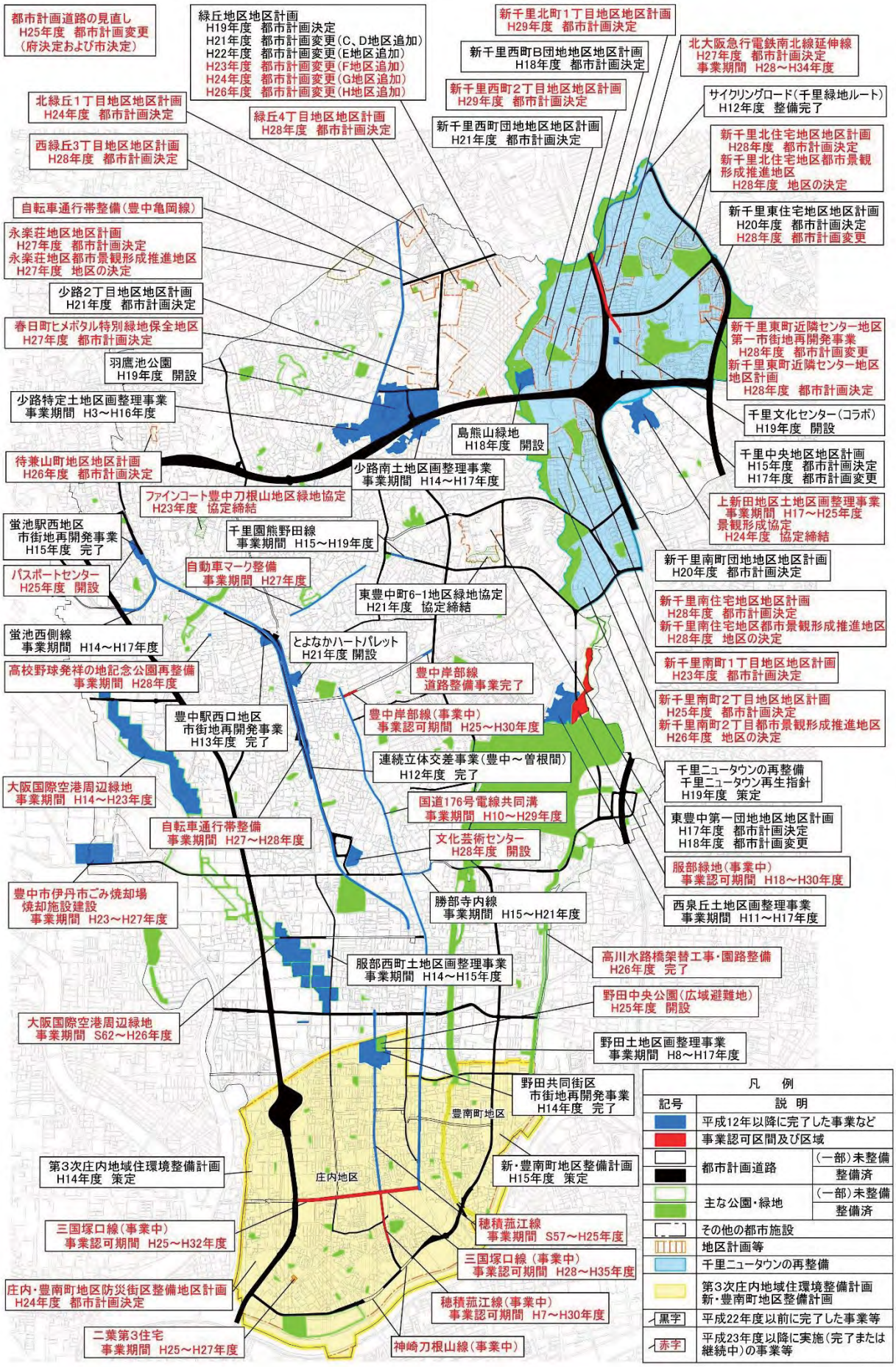
出典：平成 21 年・平成 26 年経済センサス-基礎調査



出典：平成 26 年経済センサス-基礎調査

（５）都市整備などの概況

平成 29 年（2017 年）12 月時点



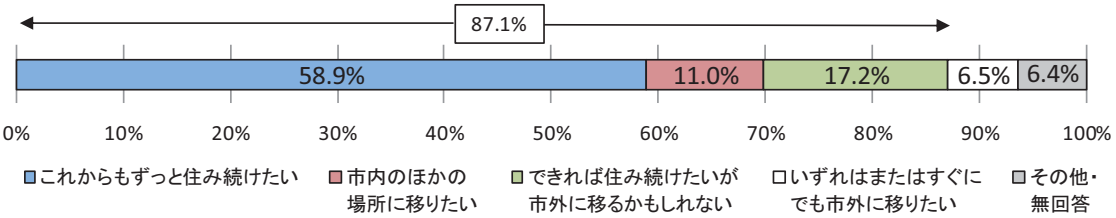
第２節　市民・事業者の意識

（１）市民アンケート調査の概要

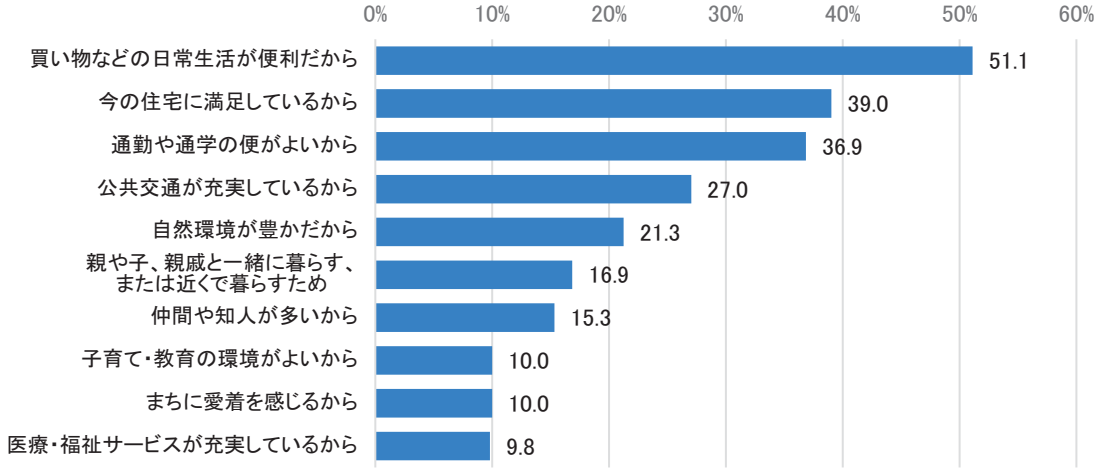
現状のまちの評価や今後重要と思うテーマなどについて市民の意見を把握するため、平成 27 年（2015 年）８月に市民アンケート調査を 18 歳以上の市民 8,000 人を対象として実施し、2,838 通の回答を得ました。

①居住意向

・本市に住み続けたい意向を持つ市民は、全体で約 87%を占めており、住み続けたい理由としては、「買い物などの日常生活に便利」、「今の住宅に満足」、「通勤や通学に便利」が多く選択されています。

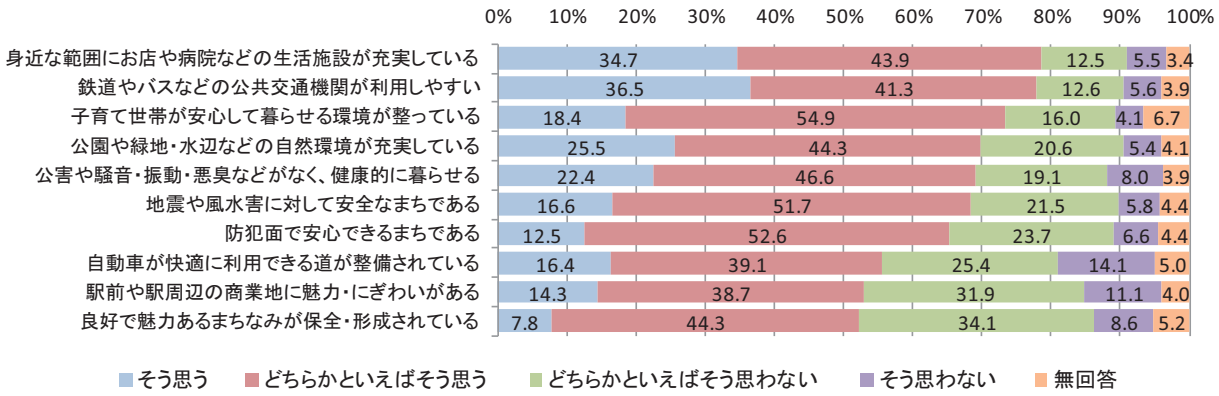


○住み続けたい理由（上位 10 項目を抜粋）



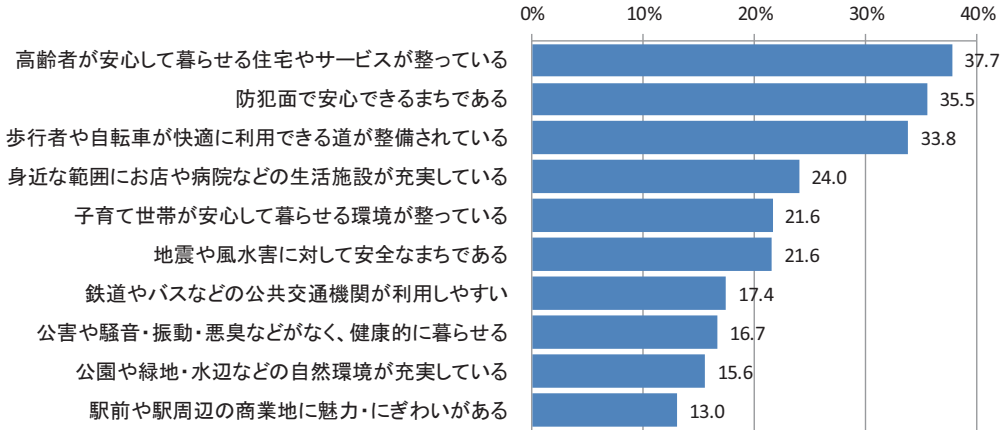
②居住地域の現状評価（上位 10 項目を抜粋）

・現状評価が高い項目は、「身近な範囲にお店や病院などの生活施設が充実している」、「鉄道やバスなどの公共交通機関が利用しやすい」、「子育て世帯が安心して暮らせる環境が整っている」などとなっています。



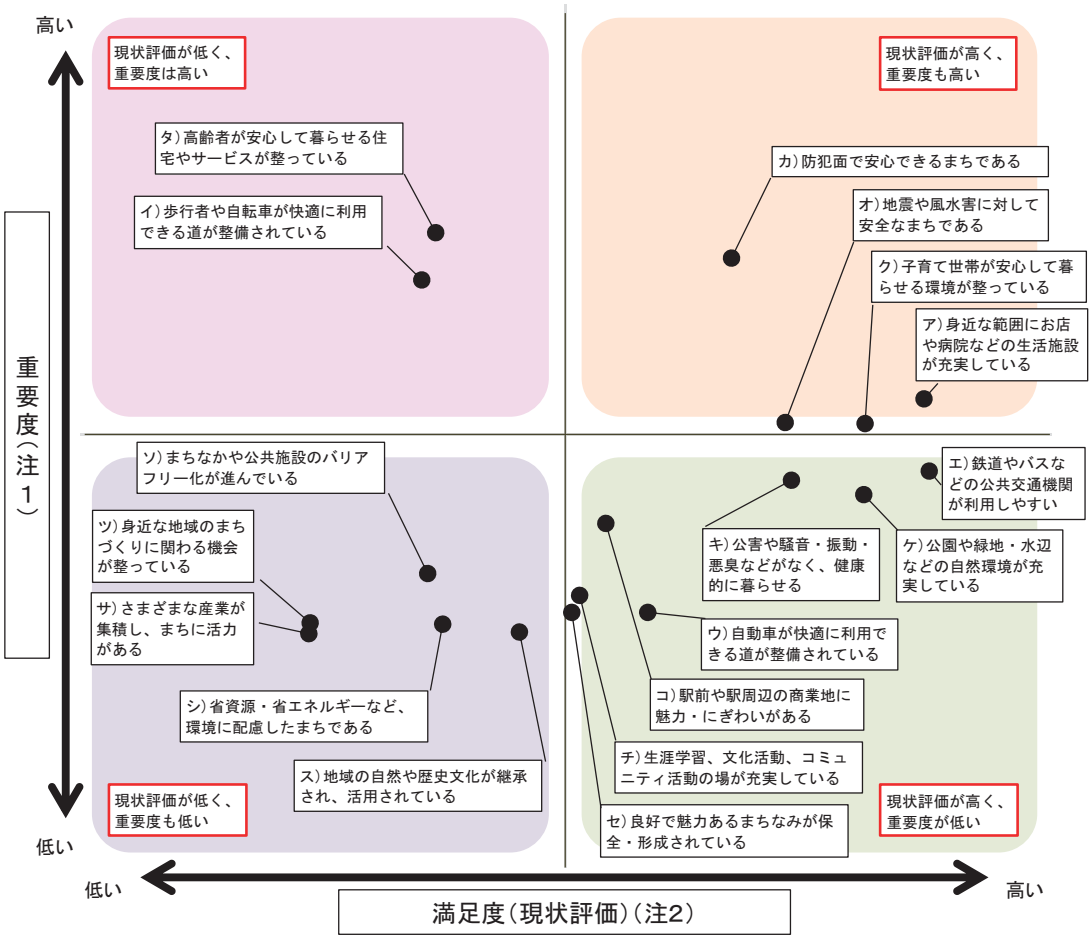
③居住地域で今後重要と思うテーマ（上位 10 項目を抜粋）

・今後重要と思うテーマは、「高齢者が安心して暮らせる住宅やサービスが整っている」、「防犯面で安心できるまちである」、「歩行者や自転車が快適に利用できる道が整備されている」が多く選択されています。



④今後の都市づくりで重要なテーマ

・居住地域の現状評価と、今後重要と思うテーマの結果をあわせてみると、重要度が高く満足度が低い「歩行者や自転車が快適に利用できる道の整備」、「高齢者が安心して暮らせる住宅やサービスの整備」などが、今後重要となるテーマであるといえます。



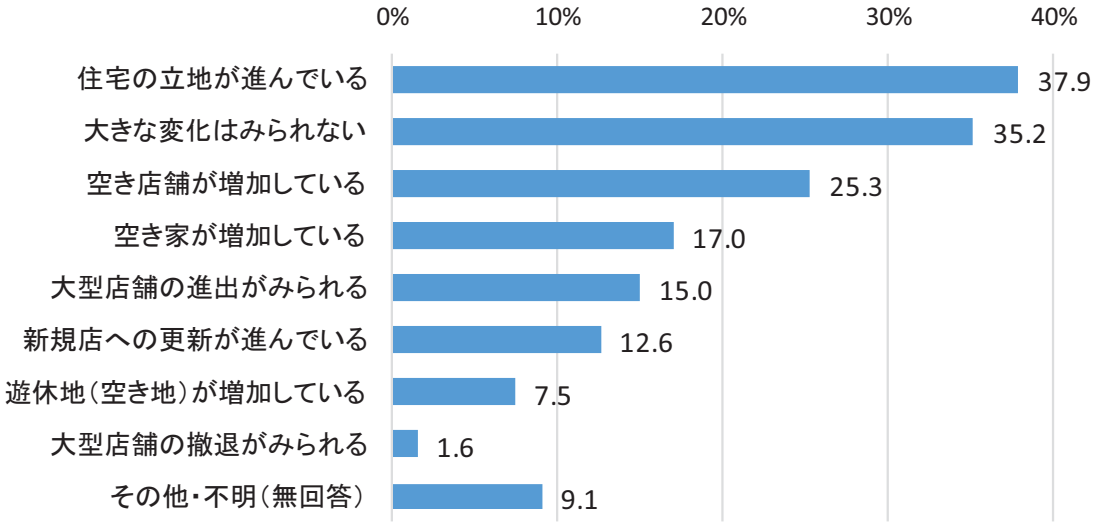
注１：「居住地域で今後重要と思うテーマ」の選択された割合
注２：「居住地域の現状評価」を点数化（「そう思う（+2 点）」～「そう思わない（-2 点）」）

（２）事業所アンケート調査の概要

産業立地に関する事業者の意見を把握するため、平成 27 年（2015 年）９月に事業所アンケート調査を市内の 1000 事業所を対象として実施し、253 通の回答を得ました。

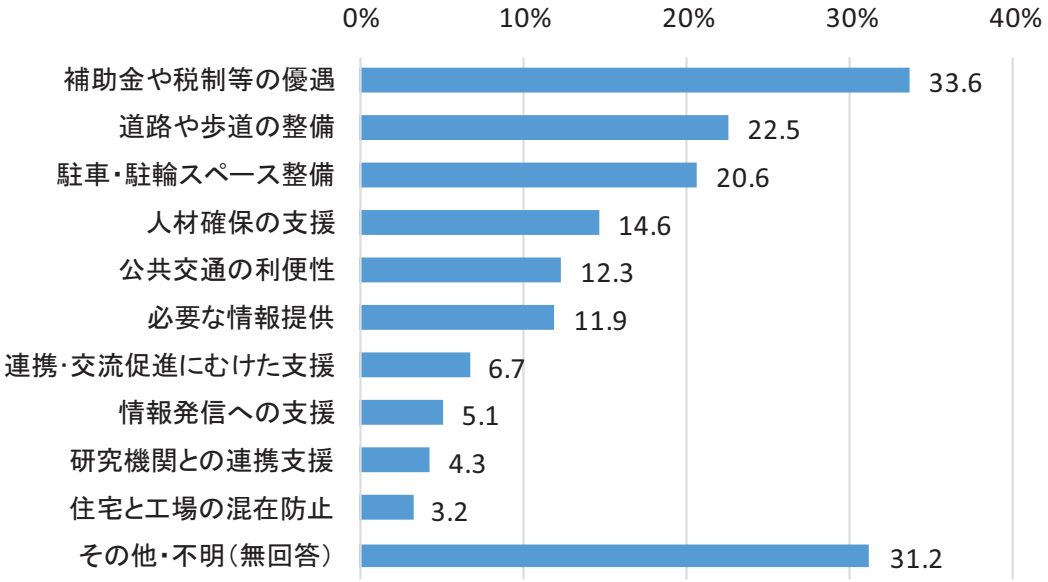
①近隣のまちの状況変化

・「住宅の立地が進んでいる」と「大きな変化はみられない」が多く、次いで「空き店舗」「空き家」が増加していると感じている事業者が多くなっています。



②豊中市に期待すること

・「補助金や税制等の優遇」が最も多く、次いで「道路や歩道の整備」と「駐車・駐輪スペース整備」に対する期待が高くなっています。



（３）市民ワークショップの概要

総合計画で示す「まちの将来像」や、都市計画マスタープランに反映すべき「都市づくりで重点的に取り組む内容」の意見交換のため、平成 27 年（2015 年）10 月から平成 28 年（2016 年）１月にかけて、公募市民・庁内若手職員・大阪大学の学生らの参加によるワークショップを計６回開催しました。

テーマ	ワークショップでの意見
都市構造	駅前の利便性（商業、福祉、公共サービス）が充実したコンパクトなまち 商店街の活性化 住んでもらいたいエリアを設定する 住宅地、工業地の地域内での効率よい住み分けが必要 「駅の拠点」と「地域の拠点」が必要（公民館を中心とした拠点） 教育施設の充実とあわせて子育て地域を設定
交通	交通機関の利便性向上 高齢者にも配慮した駅前のバリアフリー化 阪急の駅に急行が停まるようにする（服部天神駅など） 鉄道で東西をつなぐ 路線バスの本数を増加する バスが遅れない運行サービスのための道路整備 自転車道の整備（主要道では歩道を歩行者・自転車用を区分する） 歩きやすい道路の舗装とする 高齢者の「足」の確保（バス・タクシーに代わるコンパクトカー、小型バス、官民の連携）
防災	空き家、老朽化した建物をなくす まち全体での防災訓練 情報発信、避難場所の周知 防災意識を高める（小学校の防災訓練に地域住民が参加して炊き出しなどの実践的な訓練、楽しく学べる機会づくり・教育）
住環境	今の住環境を将来に引き継ぐためのルールづくり まちづくりに対する意識の向上（成功事例をもっと周知する） まちづくりを通した隣近所の交流 バリアフリーなど高齢者目線でのまちづくり 空き家の活用（老若男女が憩える場所にする、グループホーム、コミュニティビジネスなど）
景観	まちとしての魅力づくり 景観を整える
自然・環境	公園を増やす、バリアフリー化 こどもが安全に遊べる公園作り（古くなった遊具、汚れた遊具を見直す） 公園などの遊び場を充実 民間（マンション、事業者）の敷地の 20%は植樹する制度 街路樹を植える みどりの適正な管理

第３節　都市づくりの課題

本市を取り巻く社会環境の変化や市民・事業者などの意識などから、「第２次豊中市都市計画マスタープラン」の策定にあたっての都市づくりの課題を、以下のように整理します。

①人口減少・少子高齢化の進行を見据えたまちづくり

将来的に人口減少や少子高齢化の進行が見込まれるなか、都市活力の維持や都市インフラの適切な管理の観点から、現状のコンパクトな都市構造の維持・強化を図るため、居住の適切な誘導や、市民生活を支える拠点となる鉄道駅周辺地区の機能充実などの取組みが求められています。

②住宅と産業の立地に配慮した市街地の形成

本市の市街地特性を活かし産業の活性化を進めるため、事業所が集積する市街地では良好な住環境と安定した操業環境を形成する観点から、住宅と事業所の混在を防止するための取組みが求められています。また、住宅と事業所が混在する市街地では、住宅と事業所が共生できるまちづくりが求められています。

③低炭素都市づくりの推進

地球温暖化などの重大な環境問題の主要因である温室効果ガスの削減は、地球規模で課題となっているため、本市においても、低炭素都市づくりに向けた取組みのさらなる充実が求められています。

④公共交通の利便性を高める取組みの推進

本市の公共交通の利便性については、市民から高い評価を受けている一方で、市内各地域における交通環境の課題が存在しており、その解決が求められています。また、これからの高齢化の進行や地球温暖化対策への対応などにおいても、ますます公共交通の重要性は高まってきており、全市的に公共交通を中心として、歩いて暮らせるまちづくりを進めていくため、その利便性を向上させていくことが求められています。

⑤道路交通環境の改善に資する取組みの推進

人や物が円滑に移動できるよう、都市の骨格となる道路整備だけでなく、歩行者・自転車の安全な通行の確保のほか、高齢者や障害者などに配慮した歩道整備などの道路交通環境の改善が求められています。また、高齢化の進行に伴い、健康・快適な生活が送れるように、高齢者でも出歩きやすい環境を確保することが求められています。

⑥周辺都市と連携したまちづくりの推進

関西圏の交通の要衝となる大阪国際空港や、北部大阪の都市拠点である千里中央地区においては、本市だけでなく、周辺都市への波及効果につながる活性化が求められています。また、大阪市や兵庫県と隣接する地理的特性や、鉄道や高速自動車道路網などによる広域ネットワークを活かしながら、周辺都市での新たな拠点形成などと連携したまちづくりを進めることで、相乗効果により、一層発展していくことのできる取組みが求められています。

⑦多様な取組みによるみどりの確保

市街地における公園や緑地などの自然環境については、市民から良好な評価を受けていますが、みどり豊かなうるおいのあるまちづくりを進めるためには、公園・緑地の整備や市民・事業者などとの協働による緑化、農地の保全・活用など多様な取組みが求められています。

⑧親しみの持てる水辺環境の確保

都市に残る貴重な自然環境として、河川沿いのみどりの保全とともに、安全性を確保しつつ、市民にとって親しみやすい河川や水路などの水辺環境の確保が求められています。

⑨魅力ある都市景観の形成

市民共有の財産である都市景観をまもり・つくり・そだて・いかすためには、景観への意識を高め、景観形成に取り組む人材の育成や、地域特性を活かしたルールづくりの取組みを進めていくことが求められています。

⑩住み続けられる住宅・住環境の形成

定住意向については、市民から高い評価を受けていますが、居住選択される住宅都市としてあり続けるためには、地域コミュニティの育成や空き家の増加などの課題に対応し、安全で安心して地域に住み続けられる住宅・住環境づくりに向けた取組みが求められています。

⑪災害に対する安全性の向上

近年頻発している集中豪雨や地震などの自然災害に対して、安全で安心して暮らすことができ、災害時には被害を少しでも減らせるように、災害に強いまちづくりを進めるため、ハード面とソフト面を適切に組み合わせた対策が求められています。

⑫地域の特性を踏まえたまちづくりの推進

本市の市街地の成り立ちや態様はさまざまであるなか、愛着と誇りを育むまちづくりを進めていくためには、地域を熟知する市民・事業者などが主体となる取組みと市が協働し、まちの課題解決や発展につながる土地利用のルールづくりなどを進めていくことが求められています。

序章
第1章
第2章
第3章
第4章
参考資料

●都市づくりの課題と都市づくりの方針との対応

「都市づくりの課題」と、第 3 章で示す「都市づくりの方針」との対応関係を、以下の表に示します。

都市づくりの課題と都市づくりの方針との対応表

都市づくりの課題	第３章　都市づくりの方針						
	活力あふれる便利で快適なまちづくり	誰もが移動しやすい交通環境づくり	自然環境や都市のみどりに触れ合える環境づくり	まちの魅力を高める都市景観づくり	住んでみたい住み続けたいまちづくり	安心・安全に暮らせるまちづくり	地域の個性を活かしたまちづくり
	P.34	P.40	P.45	P.50	P.54	P.59	P.63
①人口減少・少子高齢化の進行を見据えたまちづくり	●	●					●
②住宅と産業の立地に配慮した市街地の形成	●						●
③低炭素都市づくりの推進	●	●	●		●		●
④公共交通の利便性を高める取組みの推進		●					
⑤道路交通環境の改善に資する取組みの推進		●					
⑥周辺都市と連携したまちづくりの推進	●						●
⑦多様な取組みによるみどりの確保			●	●			
⑧親しみの持てる水辺環境の確保			●				
⑨魅力ある都市景観の形成				●			
⑩住み続けられる住宅・住環境の形成					●		●
⑪災害に対する安全性の向上						●	
⑫地域の特性を踏まえたまちづくりの推進	●	●	●	●	●	●	●